

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2016. 1
No.269

新年あけましておめでとございます

今年も宜しくお願いいたします。

先日、私がAW様新年交礼会で挨拶させていただきました内容を掲載いたします。常日頃の私の想いでございます。

私どもはAW様のご尽力のお蔭で当初の目標生産数に近づいており、大変感謝いたしております。

ハイレベルな生産台数に挑戦する努力は幸せになる為の手段ではなく、この努力そのものが幸せを与えてくれるものと考えております。

あのミケランジエロは、

『最大の危機は、目標が高すぎて達成できないことではなく、目標が低すぎてその低い目標を達成してしまうことだ』と言っております。

我々は高い目標を掲げ、それを達成できるように挑戦してまいります。

まさしく挑戦が人を育てることにつながるのだと思います。

また、私どもが忘れてはならないことは、常に現場に出て「安全第一・品質最優先」ということを線の切れたレコードのように言い続けることとであります。

これを五年、十年、二十年と言いつけると、とてつもなく大きな差になり、大きな力となつて、ますますAW様に貢献できると信じております。

昔から日本には「縁」「おかげ様」というように、相手様への感謝の言葉がたくさんあります。忘れてはならないことは、「恩返し」の気持ちです。「受けた恩は石に刻め」と言われているように、我々を育てていただいているAW様に感謝し、失敗を恐れず新しい事や、人がやらないことに挑戦し続けることがAW様への恩返しと思っております。

『育十スピード』

これは二〇一六年のイナテックのキーワードです。今年をどんな年にしようかと考えたとき、会社にとって何が重要になるのかを表した言葉です。

なぜ『育十スピード』なのか。

まず、人財の育成です。

昨年までに課長以上の方々には矢野先生の指導のもと、損益計算書の見方や経営分析、そして予算対実績の分析ができるようになってきました。お蔭様で皆さんも大変成長していただき、新たな職制に挑戦することができるようになりました。

そして今年の実践、つまり利益確保の年です。次なるリーダー（課長代行）を育て上げ、さらに係長さんや班長さんたちも早急に育てる必要があると実感したからです。

また、イナテック平湖では二〇一八年にTPMカテゴリーB優秀賞の受賞を狙っています。イナテック平湖の方々への人財育成も重要ですが、お蔭様で平湖の社員の方々のスピードは大変早

く、日本の本社が負けそうなほどです。お互いに頑張りましょう。

社長塾開始

次に資本の整備です。

AW様の二〇二〇年の年間生産一千万台体制の準備は整いました。

工場用地は鳥取工場で確保し、中国イナテック平湖も地続きの土地を確保できました。後は早急に経常利益目標を必達することです。また工場用地を有効活用するために、付加価値の高い製品を受注し、再投資資金を生み出すことです。

鳥取工場では今年から来年にかけてラインを移動し、連続稼働させ売上、利益目標を達成させます。そのためには、現在本社で研修をさせていただいている鳥取の方々を丁寧かつ早急に育成し、安全で無災害、高品質の製品を作る鳥取工場を立ち上げることが急務となります。

ですから『育+スピード』なのです。

「育てきる」「育ちきる」の両輪に、今年からはさらに「スピード」が必要なのです。

『育+スピード』の項でも述べましたが、本社では課長代行の方々に、イナテック平湖では部長以上の方々に対し月一回社長塾を開催します。次期リーダー育成のスピードを上げることが急務だと考えています。

今年度から私自身、教育に動き出します。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

三

矜名、不若逃名趣。練事、何如省事間。

名に矜^{ほこ}るは、名を逃る^{のが}るの趣^{おもひ}あるに若^しかず。事^{こと}を練^ねるは、何ぞ事^{こと}を省^はくの間^まなるに如^{ごと}かん。

一 事を練る——ものごと^{こと}に練達^{ねだ}になる。二 事を省く——余計なものを減らす。三 閑——閑と同じのんびり。余裕があるの意。

名声を世に誇るのほ、できるだけ名声を逃れることの奥ゆかしさには及ばない。また、ものごと^{こと}に練達^{ねだ}になるよりは、できるだけ余計なことを減らすことの方が、はるかに余裕がある。

